

キャンパスライフに新たなツール

ポータルシステム—11月1日からサービス開始

専修大学では、11月1日から、学生向けのポータルシステムのサービスを開始した。ポータルシステムとは、メールや掲示板のみならず、レポート提出、呼び出しなどの伝言、教室変更の連絡など、従来事務の窓口や掲示板で行われたさまざまなサービスを一元的にパソコン上で取り扱うもの。

利用対象者は情報科学センターの登録を行っている学生で、Webブラウザの画面上で個々の利用者には与えられたユーザ番号(ID)とパスワードを入力すると、それぞれ個々の利用者宛てた情報が表示され、また表示された情報について応答する場合はその入力が可能となる。利用できる端末(パソコン)は学内ネットワークを超えて学外インターネットサービスに接続されている端末も含み、一部の機能については携帯電話からもサービスを受けることができる。

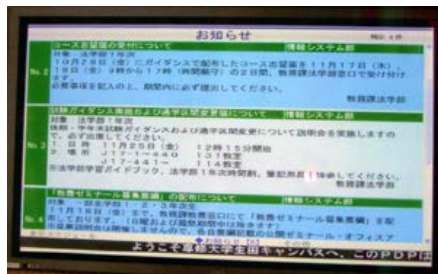
さらに50インチの大型プラズマディスプレイを学生の目にとまりやすい生田2号館玄閣ホール、120年記念館5階アトリウム、神田1号館B1学生ホールに設置し、お知らせや休講情報などについては、このディスプレイで公開される。今後、講義支援機能として、パソコンを通じてゼミなどの打ち合わせを行うことができる電子会議システム、申請受付、統合認証(※)などの機能も順次追加されることが予定されている。

従来より休講情報など大学から一方向で伝えるお知らせについては、ホームページ上で積極的に公開が行われてきた。今回のシステムは来たるべき『ユビキタス社会』(いつでも、どこでもさまざまなサービスを受けることができる社会)を視野に入れて、学生サービスを双方向化して大幅に拡充するもので、学生のキャンパスライフの利便性を飛躍的に高めるものとして、期待されている。

※統合認証=統合アカウントとシングルサインオンの機能を総称したもの。統合アカウントは同じIDですべてのサービスに対応することで、統合アカウントのシステムでは利用者は一つのIDだけを管理すればよい。シングルサインオンはこの機能をさらに進め、パソコンの利用を始めるときに一度だけIDとパスワードを入力すればメールなどすべてのサービスを利用するとき再度入力が不要となること。



神田キャンパス1号館B1学生ホールに設置されたディスプレイ



刻々と更新される情報画像

三曲研究会が定期演奏会

優雅な合奏

三曲研究会(柳本みづほ代表・文3、会員57人)の第37回定期演奏会が10月23日、東京の狛江エコルマホールで開催された。箏、三味線、尺八3種の和楽器が奏でる優雅な調べが会場を包んだ。

演奏曲目は「八千代獅子」「星夢の舞い」「和楽三章」などバラエティに富んだ11曲。聴衆450人を楽しませた。

全員が悔いのない演奏を心がけたと言う柳本さんは「一人ひとりの個性を大切に『和楽器で和音を奏で、だれもが和める和を築く』という『和』をコンセプトに活動をしています」と話している。



オープニングの「ソーラン節」



優雅な演奏を披露

《キャンパス探訪 -29-》

相馬永胤 — 「古稀所感」「於賀宴席上」

本学創立者の一人・相馬永胤は73歳で没したが、その4年余前の1919年（大8）11月、東京・新宿区の本邸で古希（70歳）の祝宴が張られた。

その折に自詠、揮毫したのが「古稀所感」「於賀宴席上」二幅で、ともに七言絶句。米国に留学した永胤は留学前、彦根（滋賀県）藩校で漢籍を学び、漢学の素養は深い。連綿体ではなく行草書体で、一文字ずつ丁寧に。

「古稀…」の大意は「頑心狂気は今も相変わらずだが、私の所行の是非は世間の評価に任せよう。古希になったが百歳までにはまだ三十年。悠々自適で余生を楽しみたい」と。

当時、永胤は本学学長で、横浜正金銀行取締役も務めており、祝宴は盛会だった。「於賀宴…」の書もその喜びを率直に表現している。永胤五女、恒子さんから寄贈。大学史資料課所蔵。

